

当院における医介連携促進への取り組み

小島病院 地域連携室 ○豊永智和 佐藤千秋

【キーワード】医療介護（医介）連携 オープン化 ケアマネジャー

1. はじめに

当院は一般病床52床、療養病床60床のケアミックス型病院であり、入院患者は急性期から亜急性期リハビリテーション、慢性期療養など多岐に渡っている。

昨年度の入院は65才以上が7割を占めており、MSWは全病床において高齢者・要介護者への支援を行なうことが多い。外来患者の高齢化も同様である。これらに伴い医療者側と介護者側の連携は必須となってくるが、多くの現場では双方の垣根を感じているのが現状ではないだろうか。そこで医療介護（医介）連携を促進するために、介護者側へ病院をオープン化するための取り組みを行った。結果、良好な医介連携が得られたのでここに報告する。

2. 方法

以前より地域のケアマネジャーから地域連携室へ「どうやって医者と面談できるか」「医者に聞いて欲しい」などの問い合わせが多くあった。医師により対応が異なっていたため、その都度確認をしていたが、ケアマネジャーはいつでも気軽に病院に来られる環境にした方が良く考えた。そこで介護者側からの医師への問い合わせ内容をまとめた上で、医師に対し病院として対応を統一するように提案した。いくつか対応方法が検討されたが、最も手間がかからない「病院訪問フリー」に決定した。これは介護保険利用者の外来受診時にはアポイントなしでケアマネジャーによる同行を可能とした。入院した場合も同じくアポイントなしで面談や問い合わせを受付けることとした。病棟へは「利用者が入院したがどうなっているか」などの電話問い合わせも多かったため、院内外へ訪問フリーを伝え、ケアマネジャーが訪れた際には看護師や地域連携室のスタッフがいつでも対応に当たることにした。これらにより顔の見える連携が可能となり、双方の信頼関係も構築され好評を得ることとなった。さらには病棟看護師の間に介護への興味がわいたせいか、積極的に介護者側と連携に取り組む姿も見られた。現在は病棟における介護連携（退院支援）の様子を写真入りでホームページに公開しさらなるオープン化を図っている。

3. おわりに

自院をオープン化することで医介連携は良好に図られてきたと考える。しかし次期の診療・介護報酬同時改定では、さらに医介連携の部分が重点評価されるであろう。これに備え、改めて院内職員へ介護者側に対する理解、地域連携業務の重要性を伝えるために、MSWによる院内勉強会（地域連携シリーズ6回）を計画している。今後も質の高い医介連携が図られるように邁進したい。